

平成28年度

事業報告

社会福祉法人 能美市社会福祉協議会

■平成28年度事業報告

I. 住民の参加と協力を得た組織運営の取り組み	・ ・ ・ ・ ・ 1
II. 福祉意識の醸成へのはたらきかけの取り組み	・ ・ ・ ・ ・ 3
III. 地域支えあい体制づくりの推進の取り組み	・ ・ ・ ・ ・ 5
IV. 能美市寺井高齢者支援センターの運営	・ ・ ・ ・ ・ 15
V. 介護保険等の在宅福祉サービスの提供	・ ・ ・ ・ ・ 16

平成 28 年度事業報告

平成 28 年度における事業の状況は、次のとおりであった。

I. 住民の参加と協力を得た組織運営の取り組み

①理事会、評議員会を開催し、地域ぐるみでの地域福祉の充実を図った。

会議名	開催回数	開催日	開催場所	案件
理事会	第 46 回	5 月 25 日	ふれあいプラザ	①評議員の委嘱の同意について ②平成 27 年度会計収支補正予算について ③平成 27 年度事業報告及び各会計収支決算の承認について ※5 月 18 日監査会（平成 27 年度監査）
	第 47 回	6 月 16 日	ふれあいプラザ	①会長、副会長の選任について ②双方代理等にかかる法人の代表権者の選任について
	第 48 回	1 月 25 日	ふれあいプラザ	①専決事項の報告について ②平成 28 年度会計収支補正予算について ③定款の変更について ④評議員会選任・解任委員会運営規程の制定について
	第 49 回	2 月 24 日	ふれあいプラザ	①評議員の委嘱の同意について ②理事・監事選任規程の改正について ③評議員選任規程の改正について ④評議員選任・解任委員会委員の選任について ⑤次期評議員候補者について ⑥評議員選任・解任委員会の開催について
	第 50 回	3 月 29 日	ふれあいプラザ	①平成 28 年度会計収支補正予算について ②経理規程の一部化改正について ③委員会規程の制定について ④平成 29 年度事業計画（案）及び会計収支予算（案）について

評議員会	第 45 回	5 月 25 日	ふれあいプラザ	①理事の選任について ②監事の選任について ③平成 27 年度会計収支補正予算について ④平成 27 年度事業報告及び各会計収支決算の承認について
	第 46 回	1 月 25 日	ふれあいプラザ	①専決事項の報告について ②平成 28 年度会計収支補正予算について ③定款の変更について ④評議員会選任・解任委員会運営規程の制定について
	第 47 回	2 月 22 日	ふれあいプラザ	①理事の補充選任について
	第 48 回	2 月 24 日	ふれあいプラザ	①理事・監事選任規程の改正について ②評議員選任規程の改正について
	第 49 回	3 月 29 日	ふれあいプラザ	①平成 28 年度会計収支補正予算について ②経理規程の一部化改正について ③委員会規程の制定について ④平成 29 年度事業計画（案）及び会計収支予算（案）について

②会員会費制度の推進（7 月推進月間）に取り組み、まちぐるみで地域福祉活動を進める気運を盛り上げた。・・・資料 1

③能美市地域福祉活動計画第 2 次計画の 4 年目の取り組みを市民参加と協力を得て、推進のための 3 委員会（委員 45 名）やあたたかい地域づくりの会（委員 9 名）、評価委員会（委員 11 名）を開催し、市民主体の福祉のまちづくりを推進した。・・・資料 2

○推進のための委員会・・・31 回開催

- ・ここに寄り添える人づくり委員会・・・11 回開催
- ・地域見守りネットワークづくり委員会・・・10 回開催
- ・支えあいのしくみづくり委員会・・・10 回開催

○あたたかい地域づくりの会・・・3 回開催

○評価委員会・・・2 回開催

○市民への報告・・・「春 まち ぽかぽか プロジェクト (P)」と銘打ち、2 月 25 日（土）～3 月 5 日（日）の 9 日間にわたり市内各会場において、24 のプログラムを開催した。その中で、3 月 5 日（日）には、「地域福祉のつどい」を寺井地区公民館において開催した。この間の参加者

数は、延べ1,721名であった。また、「能美たすかったわ〜大賞」

「能美ぼかぼかフォトコンテスト」の表彰式もあわせて行った。

- ④広報誌「ほほえみ」の発行（年4回）やホームページ（アドレス <http://www.nomi-shakyo.jp/>）を運営し、地域福祉活動やボランティア活動の啓発と情報を発信した。

○ほほえみ44号〜47号の発行（3ヶ月に1回）

○ホームページを随時更新し、広く市民への情報提供をはかった。

Ⅱ. 福祉意識の醸成へのはたらきかけの取り組み

- ①各種の大会や集いを開催し、市民の福祉意識を啓発したり、地域での支えあい、助けあい活動などへの参加を促した。

	大会や集い名	月日	会場	参加者数	備考
1	第12回能美市社会福祉大会 ※能美市民ボランティアフェスティバルと併せて開催	7月31日	根上総合文化会館	360名	社会福祉功労者等表彰 (25名7団体)
2	地域福祉のつどい ※春まちぼかぼかプロジェクト(P)の最終日に開催	3月5日	寺井地区公民館	81名	「見守りでつながる地域」をテーマにした、基調講演と活動紹介。普段の暮らしの中にあるゆるやかな見守りや支え合いを確認した。

- ②他の福祉施設や団体に事務局職員等が参加、福祉、介護の課題の検討、組織運営への支援、事例報告等を行った。

○理事・監事・評議員関係

- ・社会福祉法人湯寿会 ・社会福祉法人陽翠水 ・社会福祉法人なごみの郷
- ・社会福祉法人石川県社会福祉協議会

○各種委員会委員関係

- ・能美市総合計画基本構想策定審議会（企画振興課）
- ・能美市都市計画マスタープラン策定委員会（都市計画課）
- ・能美市地域福祉計画評価委員会、策定委員会、幹事会（福祉課）
- ・能美市自立支援協議会、定例支援会議、運営会議（福祉課）
- ・能美市虐待防止協議会、専門部会（福祉課）
- ・能美市自殺防止対策地域連絡協議会（福祉課）
- ・能美市子ども児童専門部会（生涯学習課）
- ・能美市地域力創出支援事業審査会（地域振興室）
- ・能美市地域包括ケアシステム構築のための専門部会「在宅医療・介護連携推進」（「メモリー・ケア・ネットワーク能美」）（高齢者かがやき支援室）
- ・コミニケア緑が丘運営推進会議（グリーンケア芳珠）

③ふれあい福祉事業を実行委員会形式で開催し、地域における「福祉意識」を盛り上げた。また、地域福祉への理解を進める研修会を開催し、福祉の専門職、施設、事業所の力を地域で活かして頂くよう働きかけた。

	大会や集い	月日	会場	参加者数	備考
1	ふれあい福祉運動会 ※関係者による実行委員会形式	6月28日	根上総合文化会館	425名	準備会1回、実行委員会3回開催
2	こころに寄り添える人づくり講座(全4回) ※春まちぼかぽかPの中で、「ともろっさ・能美」と「こころに寄り添える人づくり委員会」の企画として開催	①1月18日 ②2月6日 ③2月22日 ④3月5日	①障害者福祉サービス事業所「一步」 ②能美地域活動センター「はまかぜ」 ③障害者支援施設「星が岡牧場」 ④寺井地区公民館	延べ190名	施設に赴いて、当事者や施設職員からの話を聞き、障害持つ方に対する“心に寄り添う関わり方”を研修
3	聴覚障害者のつどい「福耳ネット」 ※要約筆記サークルみみずくの協力を得て実施	第4水曜日 年間12回	寺井地区公民館	会員14名	当事者同士の交流や障害者サービスにかかる情報交換
4	視覚障害者のつどい「ぬくもりサロン」(全2回)	①10月8日 ②12月3日	①ふれあいプラザ ②根上総合文化会館	8名	当事者同士の交流や障害者サービスにかかる情報交換
5	福祉施設職員交流研修会(全2回)	①11月15日 ②1月20日	①ふれあいプラザ ②ふれあいプラザ	①25名 ②13名	①講演とグループワーク 「その人らしい地域での暮らしを支えるために」 講師：住民流福祉総合研究所長 木原孝久氏 ②講演とグループワーク 「地域福祉に対する理解を深める」 講師：大阪赤十

					字病院付属大手 前整肢学園福祉 相談課長 後藤光弘氏
--	--	--	--	--	-------------------------------------

④福祉団体、福祉活動グループの事務局を担当するなど、組織活動を支援し、市民や団体の会員相互のふれあい交流事業や福祉のまちづくり活動へ働きかけ、福祉意識の醸成を図った。

○老人クラブ連合会（本部・3支部）、身体障害者福祉協議会（本部・3支部）、母子寡婦福祉連合会の事務局支援

○民生児童委員協議会（本部・3地区）事務局を担当し、連携して地域福祉を推進

○地域（まち）で障がいを考える会「ともろっさ・能美」の事務局支援

○まだまだ元気な高齢者サポートグループ「ほがらか会」の事務局支援

市民提案型協働事業「閉じこもり予防ミニデイサービス」を行うボランティアグループの活動（3会場で年間146回開催 参加高齢者延べ816名 運営ボランティア延べ380名）の事務局及び送迎のための車両の貸出をするなどし、支援した。

⑤市民の善意による寄付金を愛の福祉資金として積み立てた。

○6件 総額 230,000 円

Ⅲ.地域支えあい体制づくりの推進の取り組み

①見守りネットワークの構築を推進した。・・・資料3

	事業名	月日	内容	備考
1	地域福祉委員会への活動支援	根上地区設置数…21 か所 寺井地区設置数…24 か所 辰口地区設置数…47 か所 ※H28.11 で、全町（内）会に地域（地区）福祉委員会が設置された。	1 か所あたり活動費 10,000 円を 92 ヶ所に助成	
2	地域福祉委員会活動ヒント探し講座入門編の開催	7 月 22 日～ 10 月 21 日 (月 1 回全 5 回)	地域福祉に対する理解、課題を持つ方々の地域での暮らし、地域福祉の活動等は…などについての研修及び実習	26 町(内)会より、38 名の受講者の推薦があり、講座受講修了者 24 名を地域福祉委員会活動推進員に登録した。 ※登録累計 249 名
3	地域福祉委員会活動ヒント探し講座実践編の開催	9 月 6 日～ 11 月 15 日 (月 1 回全 3 回)	各町(内)会・町内会で地域の課題把握のための手法として「住民流支え合いマップづくり」を実習	地域福祉委員会活動推進員のいる町(内)会のうち 6 町(内)会 20 名が受講した。 ※赤井・高坂・根上・寺井町中・緑・荒屋・和光台

4	地域福祉委員会活動推進会議 合同開催 「地域福祉委員会での支え合い活動を進めるセミナー」	①7月28日 ふれあいプラザ ②2月11日 寺井地区公民館	①59名参加 能美市の地域包括ケアシステム構築の体制、地域の助け合い活動の事例報告 ②184名参加 基調講演「介護保険改正と地域福祉委員会活動」 講師：同志社大学准教授 永田祐氏 その他、市の説明と地域福祉委員会の活動事例報告	実践編を修了した地域福祉委員 35 町(内)会を対象に活動の充実のための協議と情報交換の機会として開催 ※大成・西任田・浜・山口・中庄・西二口・五間堂・道林・吉原・大浜・中・寺井九谷・泉台・寺井横・新保・東任田・栗生・牛島・吉光・末信・大長野・佐野・緑が丘・松が岡・宮竹・和気・三ツ屋・鍋谷・火釜・岩本・下開発・来丸・三ツ口・倉重・下徳山
5	福祉推進員の委嘱と研修	任期2年で122名を委嘱（任期H30.3.31まで） 活動費の助成や研修会の開催等、活動を支援した。		
6	ふれあい弁当の実施 ※ボランティアによる手作り弁当をボランティア等が届けることを通じて、地域の見守りの機会とした。 民生委員児童委員、福祉推進員、ボランティア等の協力を得て実施	根上地区 月2回（第2・第4金曜日） 22回開催 延べ提供食数 337食 延べ協力ボランティア数 363名 寺井地区 月2回（第1・3水曜日） 22回開催 延べ提供食数 632食 延べ協力ボランティア数 436名 （寺井高校 JRC 部 48名含む） 辰口地区 月2回（第2・4火曜日） 22回開催 延べ提供食数 624食 延べ協力ボランティア数 620名 子育て応援弁当（基本産前産後の方のいる） 基本月6回 計 66回開催 延べ利用者数 31名 延べ提供食数 487食 「ひな弁当・もみじ弁当」友愛訪問（中学ボランティア活動の機会として） 根上中学校 2月24日 68名参加 寺井中学校 11月16日 50名参加 辰口中学校 2月14日 112名参加		
7	いきいきサロン活動への支援 ※いきいきサロンと	根上地区	設置数 20 か所 延べ参加者数 6,840 名 延べボランティア数 2,068 名	開催回数 323 回

	は町(内)会、町内会単位で行われている高齢者等の閉じこもり予防や見守りのつどい	寺井地区	設置数 21 か所 延べ参加者数 6,333 名 延べボランティア数 1,563 名	開催回数 365 回
		辰口地区	設置数 35 か所 延べ参加者数 6,877 名 延べボランティア数 1,793 名	開催回数 391 回
		いきいきサロンボランティア研修会 参加人数 88 名 テーマ 「爺力(ジリキ)と婆(バキ)でいのちをつなぐ」 月日 8 月 18 日 会場 寺井地区公民館 講師 石川県各種女性団体協議会会長 常光利恵氏 会員会費を財源とし、いきいきサロン 76 か所へ、 計 3,155,200 円を助成した。		
8	一人暮らし高齢者昼食会開催への助成	地域福祉委員会 (いきいきサロン) が自治公民館等を会場に開催する一人暮らし高齢者昼食会に対し、対象者 1 名あたり 700 円を助成した。		参加者数 356 名
9	おでかけサロン	地域福祉委員会 (いきいきサロン) で一人暮らし高齢者を含む参加者同士が、交流しながらちょっとしたおでかけする機会に対し、1 地区年 1 回 6,500 円を助成した。		実施町会 20 町会 参加者数 439 名
10	音訳テープの提供	聴覚に不都合のある方に対し、音訳ボランティアたんぼの協力を得て、広報のみ、議会だより、社協広報誌ほほえみ、ボランティア情報誌ボラはあとをテープに音訳、提供した。		利用者 4 名 その他図書館などへ提供
11	生活支援、買い物支援等を行う、市民団体や市内 NPO 法人への活動支援	①能美市商工会女性部の買い物弱者への移動販売活動 (年 22 回開催 市内中山間地を中心に実施) について、活動費 50,000 円を助成すると共に、地域福祉委員会やいきいきサロン等との連絡調整、情報提供などの支援をした。 ②町内の課題把握、その解決方法の検討の中から、生活支援の活動を行うことを目的に立ち上がった認定 NPO 法人えんがわ (泉台町) に対し、活動費 50,000 円を助成すると共に情報提供など、活動を支援した。		
12	地域のお店屋さんの見守り活動への支援 (企業ボランティアセミナーとして開催)	のみ商業協同組合が主催する研修会の運営支援「お店やさんの認知症学習会～地域の見守り活動を考えよう～」 月日: 2 月 27 日 会場: ふれあいプラザ 講師: 能美市認知症キャラバン・メイト		参加者数 22 名

13	歳末時のお見舞金の贈呈	共同募金歳末たすけあい募金を財源とし、民生委員児童委員の協力を得て、12月6日から31日にかけて、市内の生活困窮者等に対し、お見舞金を贈呈した。	贈呈件数 301件 贈呈金額総額 1,505,000円 (一律 5,000円)
----	-------------	--	---

②生活援助員（ヘルパーステーション能美介護福祉士）が地域の情報と連携しながら、要援護者の見守り、いきいきサロン等の出前講座講師、各種計画の委員会への出席等を通じて、介護予防や生活支援の活動を支援した。

○安否確認のための要援護者一声訪問 139件

○いきいきサロン等への出前講座講師 9件

○能美市地域福祉活動計画地域見守りネットワークづくり委員会 11回

③同じ立場同士の支えあい活動を支援した。

	事業名	月日	会場	参加者数
1	ほっとあんしんサロン ※介護を考える会の協力を得て実施	12回開催（毎月第2水曜日）	ふれあいプラザ	139名
	高齢者のつどい「ふれあい喫茶」※12月まで実施	36回開催（毎週水曜日）	寺井老人福祉センター 一亀齢荘	延べ716名
2	親子サロンとママ友相談の開催 ※スタッフとして有償ボランティアを配し実施	43回開催（毎週木曜日）	北部児童センター	312組 664名
		43回開催（毎週土曜日）	ふれあいプラザ	869組 2,602名
		43回開催（毎週火曜日）	岩内児童館	291組 623名
	のみんな広場の開催 ※春まちぼかぽかPの中で能美市地域福祉活動計画「支えあいのしくみづくり委員会」「子育て応援委員会」合同企画として開催	①10月29日 ②12月10日 ③2月25日	ふれあいプラザ	合計310名 ※カフェと絵本コーナー、ミニコンサート、ふれあいスペース等

④地域で安心・安全に暮らすために各種相談を実施した。

	相談事業	実施日と会場	件数や参加者数	備考
1	生活福祉資金等貸付事業の申請相談の窓口や償還のための支援 ※県社協からの受託含む	随時	【市福祉資金利用件数】 H28.3.31 貸付件数 7件 H29.3.31 貸付件数 9件 【県社協生活福祉資金】 合計 73件	※貸付決定は市社協が行う ※貸付決定は県社協が行う。市社協は、市内

			・福祉資金・教育資金・緊急小口資金 49 件 ・離職者支援資金・総合支援資金 21 件 ・臨時特例つなぎ資金 3 件	における利用申請、償還支援、連絡調整を行う。 実相談件数 52 件 延べ相談件数 116 件
2	福祉サービス利用支援事業の利用相談窓口と生活支援員への支援※県社協からの受託事業	随時	初回相談件数 8 件 利用者数 26 名 [・知的障害 5 名 ・認知症 12 名 ・その他 9 名]	※実際の契約は基幹社協等が行う
3	心配ごと相談所の運営と相談員の委嘱	①5 日開催 寺井地区公民館 ②15 日開催 辰口福祉会館 ③25 日開催 根上窓口センター	開催回数 36 回 相談件数 43 件	各地区 9 名計 27 名の相談員を委嘱 ※相談員は民生委員児童委員、人権擁護委員、行政相談員で、任期は H28 年 12 月から 3 年間。
	心配ごと相談員研修会	月 日：1 月 31 日 会 場：ふれあいプラザ テーマ：「親族トラブル対応をどうすればいいか」 講 師：金沢こころの電話 代表理事 中村宏兵氏		
4	弁護士無料法律相談	ふれあいプラザ	開催回数 24 回 相談回数 96 件	1 回 30 分で 4 名まで要予約
5	行政書士無料相談	年 6 回 ふれあいプラザ	開催回数 6 回 相談件数 11 件	県行政書士会小松支部の協力を得て実施
	行政書士無料講習会 ①「よくわかる相続の基礎知識」 ②「相続トラブル解消(予防法)セミナー」 ③「ミスしない遺言書の書き方」	年 6 回 ふれあいプラザ	延べ参加者数 30 名	要予約

⑤ボランティア・コミュニティ活動支援センターを運営し、福祉の人づくりや地域づくりを進めた。

○ボランティア・コミュニティ活動支援センター運営委員会開催（年 3 回）

・ボランティアグループの活動助成の協議検討

- ・「喫茶あい・テラス」の運営に関する協議検討
- ・次年度のボランティア事業の企画について協議検討
- ボランティア活動者を登録し、ボランティア保険の加入を助成した。
 - ・91グループ 3,678名
- ボランティアの相談、斡旋を行った（計71件）
 - ・イベントに関するボランティアの相談と派遣 38件
 - ・高齢者・障害者への支援に関するボランティアの相談と斡旋その他 33件
- 第9回能美市民ボランティアフェスティバル7月31日（日） 根上総合文化会館
 - ・実行委員会開催数 10回（準備会、報告集編集委員会含む）
 - ・実行委員会委員数 50名
- ボランティアグループへの活動助成を行った。8グループに対し、総額315,000円
- ボランティア器材（車いす・かき氷器・ポップコーン機器・点字器・室内用各種レク器材等）の貸出を行った。 計136件

・町会、いきいきサロンからの依頼	83件
・要介護者をもつ家族からの依頼	12件
・学校等からの依頼	6件
・ボランティアグループからの依頼	4件
・その他、個人からの依頼	31件
- 福祉協力校を指定し、活動費を助成した。
 - ・市内8小学校、3中学校、1高等学校に対し、総額960,000円の助成
 - ・指定校の活動連絡会の開催（7月28日 ふれあいプラザ）
 - 講演：「福祉教育における学校と地域ボランティアの連携について」
 - 講師：motto ひょうご 事務局長 栗木 剛氏
 - 参加者数：40名（教諭21名、ボランティア19名）
- 福祉協力校における福祉教育カリキュラムなどへのアドバイスなどをし、推進を支援した。
 - ・講師の派遣、情報提供
- 誰もが集いやすいボランティアセンターとして、ボランティアや市民が集い、ボランティアに関する情報交換やふれあい語り合える場「喫茶あい・テラス」を開催した。（ふれあいプラザを会場に年間2回開催）
- 市ボランティア連絡協議会（市・3地区）の活動を事務局として担当、支援した。
 - ・研修会、交流会の開催
 - ・市ボランティア連絡協議会情報誌「ぼらはあと」の年2回発行支援
- ホームページ（能美市ボランティア・コミュニティ活動支援センター(<http://nomi-vc.net>)）の運営やボランティアセンターだより（毎月1回）を発行し、ボランティアに関する情報を発信した。
- 減災、防災のための自助、共助、公助のネットワーク「能美市民防災ネットワーク」の事務局を担当し、その活動を支援した。
 - ・定例会 年5回開催

- ・出前講師派遣 8回（町会やいきいきサロン、婦人会等へ）
- ・研修会 年3回開催

○災害時に設置する災害ボランティアセンターについての研修会への職員派遣及び情報収集を行った。

○傾聴ボランティアを派遣し、要援護者の孤独感の解消に努めた。

- ・対象者は11名（一人暮らし高齢者等）
- ・登録傾聴ボランティア40名
- ・年間88回派遣

○各種ボランティア講座を開催し、ボランティアへの関心を掘り起こし、その活動を支援した。

	事業（講座）名	実施月・回数	参加人数	内容
体験・講座	ジュニアボランティアクラブ	10～12月 (全14回)	延べ138名	小学生と高齢者とのふれあいを通じて、ボランティア体験を実施した。
	中学生ボランティアチャレンジ体験	7月～8月 (全4回)	311名	中学校生徒会が連携し企画活動した。 ①根上中学校（7月23日） 「We are 松々レンジャーズ！！大きな松を育てマツ」 ②寺井中学校（8月6日） 「アモーレ和田山～K.S.K キレイにしてください～」 ③辰口中学校（7月24日） 「いいね！手取川～辰中生の清掃～」 ④「第9回能美市民ボランティアフェスティバルの運営スタッフ体験」（7月31日）
	高校生ボランティアチャレンジ体験	7月31日	12名	第9回能美市民ボランティアフェスティバルの運営スタッフ体験 ※石川県社協サマーボランティア体験にあわせて実施
	企業ボランティアセミナー（※企業の地域貢献支援）	1回	のみ商業協同組合 22名（関心のある市民含む）	
支援	福祉協力校での福祉ボランティア体験学習	通年	4,178名 (149クラス)	ボランティアが講師となり、車イス・アイマスク等の体験学習を通じて、高齢者や障害をもつ方々との交流を行った。
	傾聴ボランティア連絡会「うなづき」の活動支援	年6回	会員40名	①傾聴活動実践者同士の課題共有、解決への検討等の機会を支援した

				(年間 6 回開催) ②専門知識のフォローアップ研修の開催を支援した (年 2 回開催) ③市民への傾聴ボランティアの啓発研修の開催を支援した。参加 29 名 月日: 3 月 4 日 会場: 根上総合文化会館 講師: (財)メンタルケア協会指導精神対話士 坂尻他津子氏
--	--	--	--	---

○各種の収集窓口 (ボックス) を設置した。

- ・老人福祉センター「白寿会館」、老人福祉センター「亀齢荘」、旧辰口健康福祉センター、ふれあいプラザ

収集物	収集取扱い団体	送付先	使途
エコキャップ	障害者サービス事業所「一歩」	日本委員会 (JVC) ～世界の子どもにワ クチンを～	エコキャップ 800 個で子 供 1 人のポリオワクチン になる。
		積水樹脂株式会社へ	細かく粉砕し、リサイクル 製品に生まれ変わる。
プルタブ	能美市社会福祉協議会 ボランティア・コミュニ ティ活動支援センター	◆H28 年度に集めたプルタブは、 <u>合計 436 kg</u> 金属廃品回収業者に売却し、換金した。H24 年度 から継続して車椅子を購入し、市内の福祉施設へ寄 贈していたが、今年度は積立。	
ベルマーク	ボランティアグループ 「山ぼうしの会」等	ベルマーク財団へ	ベルマークは 1 点 1 円にな る。一部は発展途上国の教 育支援に使われ、一部が集 めた地域の学校教育備品 の購入に使われる。
使用済インクカ ートリッジ	石川県社会福祉協議会 ボランティアセンター	キャノン・エプソン・ リコーなどの企業へ	使用済インクカートリッ ジの回収を通じて、ベルマ ーク運動に参加。使途はベ ルマークに同じ。
古切手、書き損じ ハガキ		公益財団法人ジョイ セフ (家族計画国際協 力) へ	アジア・アフリカ中南米の 発展途上国の保健活動 (予 防接種や保健師の活動) の 助成に使われる。
使用済プリペ イドカードなど			

⑥ファミリー・サポート・センターを運営した。

○ファミリー・サポート・センター運営委員会の開催 (年 5 回)

○会員研修会の開催（年 9 回）、研修会及び交流会の開催（年 3 回）

会員数		支援内容	利用件数
依頼会員	283 名	保育園までの送迎	13 件
協力会員	79 名	子どもの習い事等の送迎	209 件
両方会員	70 名	障害を持つ子どもの預かりや送迎	208 件
		保育施設の保育前や保育終了後の預かり	59 件
		放課後や放課後児童クラブ終了後の預かり	295 件
		保護者等の就労の際の援助	19 件
		病後児の預かり	5 件
		保護者の病気、外出等の際の援助	42 件
		その他	66 件
計			916 件

⑦産前産後の方々に子育て応援ヘルパーを派遣した。

○産前の体調不良の時期、または産後間もない時期等に家族から支援を受けられない方等に対し、母子保健コーディネーターと連携し、家事や育児の手伝いを行う子育て応援ヘルパーを派遣した。（利用要件有）子育て応援ヘルパーは、ファミリー・サポート・センターの協力会員にさらに必要な研修を受けて頂き、有償で活動して頂いた。

子育て応援ヘルパーの登録人数	24 名
利用実人数	6 名
延べ利用人数	10 名
延べ利用日数	52 日

⑧中高年の生きがいと健康づくりを通じた介護予防活動として、3 会場で教室とほがらかロコモ体操教室を開催した。

開催会場	開催回数	参加者数
白寿会館	45 回開催（毎週月曜日）	延べ 387 名
亀齢荘	50 回開催（毎週水曜日）	延べ 548 名
辰口福祉会館	47 回開催（毎週木曜日）	延べ 305 名

⑨生活支援基盤体制の構築に取り組んだ。・・・資料 4・5

①生活支援コーディネーター配置

○1 層（市全体）及び 2 層（中学校区単位）に生活支援コーディネーターの設置、1 層・2 層生活支援コーディネーター会議を毎月 1 回 定期開催し連携を図った。

○3 層(町会・町内会単位)生活支援コーディネーター(地域福祉委員会活動推進員)の活動の啓発を進めた。（ヒント探し講座入門編「地域活動者交流会」等で啓発）

○生活支援サービス推進協議体を運営した。・・・資料 6

⑩生活支援の新たな担い手の養成講座＜2期・3期＞を開催し、受講後の活動を支援した。

○「たすけあい・ライフサポーター活動支援講座」（講義と実習）の開催

2期 7月26日（火）～28日（木）3日間座学

8月8日（月）～9月23日（金）ヘルパー同行実習

3期 11月24日（木）・11月30日（水）・12月1日（木）3日間座学

12月5日（月）～平成29年1月20日（金）ヘルパー同行実習

受講生 第2期 11名 第3期 5名 計16名

○1～3期受講修了生による「たすけあい・ライフサポーターえがお会」（45名）の定例会等、その活動を支援

⑪能美市の介護予防・日常生活支援総合事業「訪問型サービスB」（住民主体のサービス）を受託（平成28年10月～）し、依頼に応じて「たすけあい・ライフサポーター」の訪問を斡旋、派遣した。

○訪問回数 13回

⑫地域助け合い活動整備事業を受託し、研修会を開催。また地域福祉委員会における助け合い活動を実際に行っている町（内）会、あるいはその体制を整えた町（内）会（29町会）に対し助成を行い、住民主体の助け合い活動の拡充を図った。

○研修会

日 時 平成29年2月26日（春まちぼかぽかPの企画として）

会 場 辰口福祉会館

テーマ 「助け合い活動のススメ」

・九谷町地区福祉委員会の活動報告

（日頃の住民のつながりを活用した見守り、助け合い活動）

・西二口町ほほえみネットの活動報告

（町独自のポイント制度を活用した助け合い組織「ほほえみネット」の助け合い活動）

⑬老人福祉センター2館の指定管理を受け、運営した。

施設名	延べ開館日数	延べ利用者数
白寿会館	258 日	27,147 名
亀齢荘	333 日	40,859 名
計	591 日	68,006 名

IV. 能美市寺井高齢者支援センターの運営

①高齢者の介護、認知症、介護予防、権利擁護の相談窓口や介護予防プランの

作成、包括的マネジメント等を行った。・・・資料7

【能美市寺井高齢者支援センター運営業務報告】

相談内容として、一人暮らしの高齢者や高齢者世帯からの相談、高齢者虐待、成年後見が必要と思われるような権利擁護についての相談が増えてきた。また、高齢者と障害のある方が世帯の中に同居しているケース、生活困窮等、複合的な課題をもつ世帯等のケースなど、対応困難なケースも多くなっている。

このような中、必要な支援、適切なサービス、プランの作成を行うと同時に、住み慣れた地域の中で、高齢者の方々を含めた支援を要する方々が安心して暮らせるよう、お互い様で支え合えるような地域づくりを推進しているところである。

○地域包括システムの構築

「支援が必要になっても自分らしい暮らしができる地域包括ケアシステムの構築」の実現に向け、行政や関係機関と連携を図りながら介護予防、総合事業を推進した。

また、第2層生活支援コーディネーター、認知症地域支援員、地域生活医療コーディネーターの役割を担い、高齢者が医療や介護が必要になっても、地域で安心して生活できる地域づくりに積極的に取り組んだ。

○地域ケア会議の開催

個別のケースを通じて、介護支援事業者・医療機関・民生委員児童委員・地域福祉委員会等ボランティア等、関係者によるネットワークの構築を進める手法として、「地域ケア会議」が位置づけられているが、28年度の開催はネットワーク会議3件であった。また、複合的な課題があるケース等について、処遇困難事例検討会を4件開催し、今後の支援につなげることができた。

○介護支援専門員に対する支援・指導の実施

介護支援専門員が相談しやすい窓口を心がけ、一人で困難事例を抱え込まないように、必要な後方支援を行い、困難事例検討会に繋げるなどした。

また、毎週火曜日と木曜日には、各地区高齢者支援センターと高齢者かがやき支援室による「ケアプラン会議」が開催されており、自立支援を目的としたプランかどうか等検討をしながら、あわせてプランを作成する介護支援専門員に対し支援・指導を行った。

○権利擁護

成年後見制度の相談が12件あり、市長申立てに1件つなげ、その他は、後見制度利用支援や相談対応をした。後見制度の相談は年々増加しており、相談5件中、3件を虐待の判定会議につなぎ、虐待対応計画に基づいた支援を行った。虐待の相談に関しては、総合相談を受ける段階からアンテナを立てることが早期発見になるので、成年後見制度の相談等もあわせて、総合相談に真摯に取り組み、権利侵害の防止や早期対応に努めた。

○介護予防支援

前年度末から能美市が取り組んだ介護予防・日常生活支援総合事業で、事業対象者が

介護予防・生活支援サービス事業（健幸ライフ教室、ほがらか会）に参加できるようになったことを受け、利用者が主体的に介護予防・自立支援に取り組めるような介護予防プランを作成し、支援をした。国が示している類型の中の訪問型サービス A（事業所型）・B（住民主体型）についても、ケアプラン会議にて検討し、対象者に合った支援につなげるように努力した。

○その他

在宅医療介護連携、認知症施策を推進する専門部会「メモリー・ケア・ネットワーク能美」、地域での支え合いを検討する専門部会「能美市生活支援サービス推進協議体」に参加し、オール能美市体制で進める地域包括ケアシステムの構築に協力した。

また、地域での出前講座 1 件、認知症サポーター養成講座を 3 件開催した。

V. 介護保険等の在宅福祉サービスの提供

①福祉移送サービスとして、公共交通機関を利用しにくい方の移動を支援した。

当該年度末登録者数	39 名
延べ利用回数（片道を 1 回とする）	343 回
稼働実日数	121 日

②生活支援ヘルパーを派遣し、一人暮らし高齢者の生活を支援した。

当該年度対象者数	7 名
延べ実利用者数	44 名
延べ利用回数	131 回

③介護保険サービス等の提供する 2 事業所を運営し、地域福祉との連携を図りながら、質の高いサービスを提供した。・・・資料 8

- ・ヘルパーステーション能美
- ・能美居宅介護支援事業所

【能美市社会福祉協議会ヘルパーステーション事業所事業報告】

1. 総括

前年度末から能美市が取り組んだ介護予防・日常生活支援総合事業で、みなし指定への移行や、平成 28 年 10 月から新たに始まった緩和した基準の中での訪問型サービス A の事業展開により当初の予想を上回る利用者で、介護保険事業利用者への派遣スケジュールやバランス等での調整に苦慮した年度となった。月 1 回の定例会において、利用者の情報共有やテーマを決めた勉強会を通して、登録を含めた訪問介護員の資質の維持・向上に努めた。

2. 運営状況

平成 28 年度当初のサービス提供で掲げた年間派遣回数の目標達成率は介護保険 84.9%、障害者総合支援 103.4%、生活支援ヘルパーにいたっては訪問型サービス A への移行もあつ

たが併せても71.1%となった。そのことに比例し、介護保険事業収入も前年度比16%減で厳しいものとなった。正規職員の退職等も今年度は無く、従来の職員体制で望める事を強みに、市内の居宅介護支援事業所等に空き情報等を積極的に配信していったが、契約終了者を上回る新規利用者の獲得はできなかった。地域密着型サービスや小規模多機能施設・サービス付き高齢者向け住宅等の利用で、自宅で訪問介護を利用して暮らす対象者が減少する傾向にあるように思われる。反面、先に述べた訪問型サービスAについては、当初市からは予防・自立に視点を置き、地域で支える訪問型サービスBへの移行が多くなると伝えられていたが、実際は予想を超える契約者数であり、介護保険報酬の約7割の単価設定であることも運営に影響した。

3. 事業状況

① 利用者の生活の質の向上

利用者のモニタリングを実施し、課題の共有や情報の提供を行い、365日24時間連絡体制を確保し、利用者の生活の質の向上に繋げた。

② 資格取得及び法人内外の研修派遣

介護福祉士取得率が訪問介護員の6割を超え、今後も積極的に資格取得を促していきたい。研修派遣については研修計画に基づき正規・登録を問わず積極的に参加し、復命を行った。

③ 情報・知識・技能の共有による質の高いサービスの実施

毎月1回ヘルパー勉強会を実施し、利用者情報、テーマを決めての学習、実技指導等で全訪問介護員の共有を図り、より質の高いサービスの提供を実施した。

満足度調査の実施・自己評価・介護サービス自己チェックリストを活用し、介護サービスの情報を公表した。

④ 登録ヘルパーの確保

ハローワーク等で求人活動を実施し、介護保険事業で今年度新たに訪問介護員2名、訪問型サービスAに特化した登録型ヘルパー2名を採用した。

⑤ 特定事業所加算(Ⅱ)

平成29年4月1日からの取得に向け、算定要件の確認及び整備をした。

【能美市社会福祉協議会能美居宅介護支援事業所事業報告】

1. 総括

特定事業所加算の算定を継続しながら、介護給付でのプラン作成件数は、前年度比で約10%の減となっているが、前年度は5月まで2事業所体制での実施であったため、介護支援専門員数も現在の5名体制より1~2名多かったことが要因である。しかしながら、毎月の一人当たりの介護保険報酬については、前年度比10%の増で介護支援専門員一人当たりの取扱件数40件未満の最大算定要件内で一人ひとりが経営面も考慮し、日々の業務に当たった。施設入所や、長期入院等による終了者が新規契約者を上回ってはいるものの、母体である社会福祉協議会が同地区の高齢者支援センターの委託運営を行っている関係から、これまで、エリア的に薄かった寺井地区からの契約数も少しずつだが増え、全体で当初の

年間収入目標をなんとか達成している。

2. 運営状況

契約者を介護度別にみると、相変わらず要介護1・2の占める割合が全体の約70%と多く、それでも前年度と比較すると、若干、要介護3～5の占める割合が増えていることも、目標達成に絡んでいると思われる。

3. 事業状況

① 居宅介護サービス計画の作成

- ・特定事業所加算（Ⅱ）の算定要件を十分満たし、体制を確保できた。
- ・利用者に関する情報共有や留意事項に係る伝達を目的とした会議を毎週定例で開催できた。
- ・中重度者を積極的に受け入れた。
- ・24時間携帯電話を輪番制で所持し、いつでも連絡が取れる体制を確保し、必要に応じ相談に対応した。
- ・介護支援専門員実務研修の実習にかかる受入体制を整えた。

② 介護予防プランの作成

- ・介護給付でのプラン作成に支障の無い程度で、一人当たりの担当件数は、ほぼ前年度並みに協力した。

③ 要介護認定調査をコンスタントに実施した。

④ 事業所の資質向上

- ・満足度調査の実施、自己チェックリストの活用など、介護サービスの情報を公表した。
- ・研修計画を立て、業務に必要な研修はもとより、今年度はキャリアパス対応生涯研修として、チームリーダー研修や、中堅職員研修に積極的に参加した。